



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4267 号 2018.3.18 発行



障害児支援 質の向上課題 読売新聞 2018年3月18日
遊びを通して日常生活に必要なコミュニケーション能力の訓練を行う指導員(右)。放課後デイは障害児の居場所として定着しつつある(東山区で)

◇放課後等デイサービス急増

障害のある子どもが放課後や休日に利用する「放課後等デイサービス」(放課後デイ)。2012年度に制度化された当初、府内の事業所は36か所にとどまっていた

が、17年度には219か所と6倍以上に急増した。一方で、サービスの質の向上や、重度の障害で医療的なケアが必要な子どもを受け入れられる事業所不足が課題となっている。(林華代)

「順番、しっかり守れてすごいね」。子どもと担当の指導員がトランプのババ抜きを楽しんでいた。「次は先生の番だよ」「ありがとう教えてくれて」。和やかな雰囲気にも包まれた。

昨年末にオープンした「LITALICO(リタリコ)ジュニア三条教室」(東山区)で昨年末、自閉症の小4男児が放課後デイの支援を受けていた。職員が教える内容は、あいさつから時計の見方、店舗でのお金の受け渡し方に始まり、トランプ遊びを通したコミュニケーションまで多岐にわたる。絵を使いながらわかりやすく児童に伝えた。

児童の母親(48)は「家や学校でもここで学んだことを取り入れ、コミュニケーション能力や社会性が向上した」と喜ぶ。リタリコは全国8都府県32教室で1900人が利用。受け入れの枠が空くのを待つ児童もいる人気ぶりだ。

府内では、利用者も施設数に比例して増加。府によると、16年度には2906人だったが、20年度には4664人に増えるの見込まれている。

支援内容は事業所によって様々だ。絵画や造形作品を制作したり、運動療法を取り入れたり。独自の教材で「コミュニケーションスキルを伸ばす」とうたう事業所もある。

一方、支援の質にばらつきが出ているのも事実だ。中にはDVDを視聴させるだけだったり、指導員の目が行き届かずにケガを負ったりするケースもあるという。医療的な支援が必要な重症心身障害児に対応するためには、看護師など専門知識を持つ職員の配置が必要だが、そうした施設はまだ少ないのが現状。府障害者支援課は「事業所が都市部に多く、府北部では少ないなど地域的な偏りもある。医療的な支援ができる施設の充実も含め、質の向上を図っていきたい」としている。

◇国がルール作り

放課後デイが定着してきた一方で、事業所によって提供する支援に差が生じている。質の底上げが全国的な課題だ。

厚生労働省は2017年4月、事業者の開設基準を厳格化。子どもに接する職員として専門知識のある指導員や保育士を半数以上とした。管理責任者の資格要件も、障害児の支援を3年以上経験していることを加えた。

また、運営状況を保護者や事業者団体が確認できるようにするため、「適切な支援の提供」

「非常時等の対応」などの項目について事業者と保護者が3段階で評価する表を作成。公表した上で事業内容の改善に努めるよう求めている。

国がルール作りを進める背景には、障害の特性を理解せず、営利目的で開設する事業者が増えたとの指摘もある。京都市では2015年、虚偽のサービス記録を作成して報酬を不正に請求した事業者が指定取り消しの処分を受けた。

京都市身体障害児者父母の会連合会の岡千栄子理事は「個々の子どもに合わせた支援ができるように、障害に対する知識を深める研修を行う施設が求められる。医療ケアができる事業所の充実も不可欠だ」と話す。

<メモ・放課後デイ>

児童福祉法に基づく制度で、就学中の障害のある子どもが放課後や長期休暇中、生活能力向上のための訓練を継続的に受けられる施設。学童保育を利用しにくい子どもたちの居場所としてニーズが高まっており、自治体の受給者証があれば利用料の大半が公的負担となる。

<はぐるま稗原農園 四季折々>ついのすみかを目指して ホームをバリアフリーに

東京新聞 2018年3月18日

手分けして食事の準備をする利用者たち=多摩区で

社会福祉法人「はぐるまの会」(川崎市多摩区)が運営する縫製工場や「はぐるま稗原農園」(宮前区)などで、中重度の知的障害者たちが働いている。

彼らは、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス(生活介護)を受け、市内に九カ所あるグループホームで暮らす。このうち多摩区の「はぐるま共働学習ホーム」では、二十一～四十六歳の



男性五人が共同生活を送っている。

ホームで食事作りをして三十一年になる法人職員の鬼海(きかい)紀子さん(72)は彼らの母親役でもある。「障害者のグループホームの中には、給食施設から食事を配達するところも多いが、うちはお母さんの味と手作りを基本に“家庭”に近づける努力をしている」。入居者が鬼海さんと食材の買い出しに出かけることもある。

一月下旬のある日の夕食は、サンマの煮付け、しらすおろし、ワカメと豆腐のみそ汁など。「大根をおろしてもらおうかな」「ワカメはここに出てるわよ」。鬼海さんの指示で夕食作りを手伝い、配膳し、食器を洗い、しまう。その後はお茶を飲みながら、一日の出来事を報告し合った。

二年前にできたこのホームは「ついのすみかに、との思いで設計した」と法人職員の福田真さん(41)。玄関や風呂に段差はない。車いすでの利用を想定して通路や各部屋の出入り口の幅は広めに取った。将来的には建物の一階と二階を結ぶエレベーターも設置できるようにしている。



福田さんによると、知的障害者は早めに老化を迎える傾向があるとの研究事例も報告されているという。「体調不良を人に伝えられなかったり、他人との関わりの中でストレスを抱えたりすることが多い特性も影響してしまうのでは」と福田さん。現在、利用者の最高齢は五十三歳。そう遠くない将来、高齢化対応とみとりが必要になると考えている。

周辺に住宅が建設されている、はぐるま稗原農園=宮前区

で

利用者の体力向上、生活リズムの維持に欠かせないのが、日々の運動と、年に一度のマラソン大会や登山合宿だ。グループホームでは、朝食前の散歩やジョギング、夕食後の腹筋や青竹踏みなどの軽い運動が日課となっている。先月二十二日に行われたマラソン大会では、五キロ、十キロ、ウォーキングの部に分かれて多摩川沿いを走った。

中学校の特殊学級（現在の特別支援学級）の元教員らが一九八三年、古い工場の二階を間借りした縫製工場と、二軒長屋の片方を借りての共同生活ホームをスタートさせたのが、はぐるまの会の原点だ。グループホームに対する国の支援制度が整う前から「障害者が働きながら地域で暮らす」を実践してきた。

発足当初から運営に関わる元教員の岩田洋子さん（70）は「はぐるま」の名に込めた思いをこう語る。「一人一人は弱くても、力を出し合えば、大きな物を動かせるようになる」春本番。一月の大雪にも負けなかったコマツナやホウレンソウが青々とした葉を広げ、利用者たちが種まきや草むしりにいそしむ日常が続いていく。

無人駅、障害者らなお懸念 JR九州新ダイヤ【大分県】 西日本新聞 2018年03月18日

JR九州の新ダイヤがスタートした17日、県内では日豊線の牧駅（大分市）が無人化された。カメラやインターホンで遠隔対応するスマートサポートステーション（SSS）が導入されたが、障害者団体などにはなお懸念の声がある。

「特急列車が通過します」。同日正午ごろ、ホームの利用客に向かって、案内係の日名子真一さん（63）が注意を促した。日名子さんは前日まで駅長。3月末までは案内係として、SSSで導入された機器や券売機の案内などを行う。

無人化は牧駅が先行し、今後、日豊、豊肥両線の7駅でも実施されるが、障害者からは見直しなどの要望が相次いでいる。市民団体「だれもが安心して暮らせる大分県をつくる会」（同市）の共同代表で、視覚障害がある湯沢純一さんは駅利用時には線路転落の恐怖感が常にある。「すぐ助けてくれる駅員がいなくなると、ますます怖くなり利用しにくい」と今後も無人化反対を訴えていくという。

県聴覚障害者協会は、音声だけでなく、遠隔手話通訳サービス導入を求めている。協会の西村務理事長は「私たちは目で見える文字情報が頼り。実際に利用した障害者の意見をまとめて要望を続ける」と話した。

被災者援護金、滞納6割 福岡沖地震20日で13年 回収長期化、全国で多発

西日本新聞 2018年03月18日

20日で発生から13年を迎える福岡沖地震の被災者に対し、福岡市が1世帯当たり最大350万円を貸し付けた災害援護資金について、貸付総額6億7794万円（利息含む）のうち約6割に当たる約3億9417万円の返済が滞っていることが分かった。低所得の高齢者世帯などで生活再建が進んでいないことなどが理由。雲仙・普賢岳噴火災害（1990～96年）など返済期限が過ぎても自治体が債権回収できていないケースは全国で多発している。

2005年の福岡沖地震では、福岡市や佐賀県などで最大震度6弱を記録し、1人が死亡、約1200人が負傷した。福岡市では災害援護資金の返済期限は2016年度まで。市保健福祉局は「貸し付け対象は低所得者で年金生活の高齢者もいる。生活再建がうまくいっていないケースが多い」と滞納理由を説明する。

福岡市は1999年度以降、福岡沖地震以外の3災害でも災害援護資金を貸し付けており、返済を請求した計2億3209万円（利息含む）のうち7925万円が滞納状態。被災者の行方が分からなくなったために保証人に請求したり、被災者が自己破産したりしたケースもあるという。

雲仙・普賢岳噴火災害では、長崎県島原市と同県南島原市（旧深江町）が計7億890万円を貸し付け、うち2312万円が滞納となっている。東日本大震災では岩手、宮城、福島3県の自治体が計493億1131万円、熊本地震では熊本県内16市町村が計12億8651万円、昨年の九州豪雨では福岡県朝倉市と同県東峰村が計2530万円を貸し出している。

自治体は、滞納があった場合、貸付金の国負担分を、被災者に代わって国に償還することになっており、自治体担当者は「損害リスクが高く、自治体には大きな負担になる」と漏らす。

内閣府は15年、貸付件数が特に多い阪神大震災に限り、破産者や生活保護受給者、少額返還者について返済免除を認め、この場合の自治体から国への償還も免除できると通知した。計777億円を貸し出した神戸市は通知に基づき計65億円の返済免除を決定。保証人の債権放棄にも踏み切り、さらに19億円が免除されることになった。担当者は「被災者の生活再建に道筋を付けることが重要と考えた」と話す。返済免除は完済した被災者との不公平感をもたらし、「モラルハザード（倫理観の欠如）」を引き起こすという懸念も出ている。

【ワードBOX】災害援護資金

災害弔慰金法に基づき、自然災害で負傷したり、自宅の全半壊などの被害を受けたりした被災者に最大350万円を市町村が貸し付ける制度。国が3分の2、都道府県か政令市が残りを負担する。貸付金が返還されれば、負担した国や自治体にそれぞれ戻し、滞納された場合は国分を自治体が肩代わりして償還する。被災者には所得制限があり、2人世帯の場合は前年所得の合計が430万円未満が条件。原則、返済期限は10年で利率は年3%（3年間は無利子）。

障害者の会場移動、快適だが課題も 平昌パラ 18日閉幕



日本経済新聞 2018年3月17日
会場内でゴルフカートを改造した乗り物に乗り込む車いすの女性（江陵）＝西城彰子撮影
専用のリフトでKTXから降車する車いすの乗客（珍富）＝西城彰子撮影

【平昌＝西城彰子】18日閉幕の平昌冬季パラリンピックでは、障害者が移動

する際のハード面の工夫が随所に見られた。ゴルフカートを車いすのまま乗れるよう改良したり、段差のある鉄道の乗降口で専用リフトを使ったり。平昌大会の組織委に出向した東京大会の関係者は「平昌の事例を参考に、すべての人に快適な大会をつくりあげたい」と話す。

「江陵オリンピックパーク」では白いゴルフカートがパーク内を行き交う。カートは後ろに四角い箱状のスペースを設け、障害者1人が車いすのまま乗り込める構造だ。利用した鹿野牧子さん（45）は「会場は案外広くて起伏もある。乗せてもらえて助かった」とほほ笑んだ。

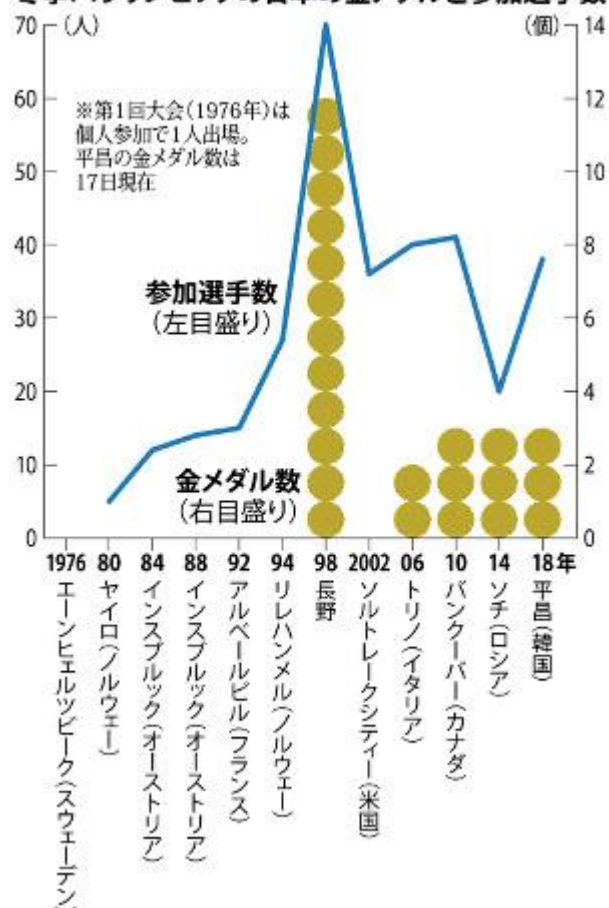
平昌大会組織委によると、カートはパーク内に18台配置。ボランティアに頼めば無線で呼んでもらえる。ボランティアの韓国人男性は「1日200回は往復する。7～8割は車いすの人」と好評さに驚く。一方、利用者からは「カートの存在を事前に知らせてほしかった」との声も聞かれた。

各会場の最寄り駅をつなぐ高速鉄道「KTX」では、乗降口とホームの間に約40～50センチの段差があり、車いすの人などの乗降時に専用のリフトを係員が事前に用意する。車いすのまま乗降できるようなリフトが乗降口とホームの間を上下する。



2020年の東京大会の組織委から平昌大会組織委に出向した仲前信治課長は15日、平昌大会での移動のしやすさについて「計画的によく準備されている」と評価。「スロープの劣化など細かい問題はあったが、見つかった課題を参考に、東京大会では細やかな配慮を徹底したい」と語った。

冬季パラリンピックの日本の金メダルと参加選手数



平昌パラキョウ閉幕 「東京」追い風、強化実る 毎日新聞 2018年3月18日
平昌(ピョンチャン)冬季パラリンピックは18日、10日間の日程を終えて閉幕する。日本選手団のメダル数(17日現在)は金メダル3個を含む計9個。前回2014年ソチ大会の6個を上回り、目標をクリアした。その半面、選手団の層の薄さや高齢化が浮き彫りに。運営面では、チケットの売り上げが好調だったはずの会場で空席が目立つなど、20年東京夏季大会に向けて教訓が残された。
【平昌・谷口拓未】

「パラは弱者の発表会でない」金の新田、監督との20年

朝日新聞 2018年3月17日



男子10キロクラシカル立位で金メダルを獲得し、荒井秀樹監督(右)と喜ぶ新田佳浩(17日、アルペンシア・バイアスロンセンター、加藤諒撮影)



ノルディックスキーの距離男子10キロクラシカル立位で、新田佳浩(37)が金メダルを獲得した。1998年の長野大会から6大会連続出場。20年の日々は、荒井秀樹監督(63)と歩んだ道のりだった。



出会いは新田が中学生のころ。数年後に長野パラリンピックを控えていたが、選手はわずか。当時から日本代表にかかわっていた荒井さんが、健常者の大会で上位に食い込む新田に目をつけ、岡山県の実家を訪ねた。

「パラリンピックを目指しませんか」。しかし、父の茂さん（69）は首を縦に振らなかった。「息子は障害者として育てていないので、無理です」

パラリンピックは今ほど知られていなかった。荒井さんは海外選手のビデオを見せ「弱者の発表会ではありません。アスリートの大会です」と訴えた。強豪選手のレベルの高さは茂さんや新田にとって衝撃だった。「片手がないことは言い訳にできない」。長野に向けた練習が始まった。

長野ではメダルに届かなかったが、2002年ソルトトレック大会で銅。大学卒業後は仕事の合間を縫ってトレーニングを積んだ。

荒井さんはスポーツに専念できる環境作りが必要と感じ、100社以上に企画書を送った。前向きだったのが日立システム（現・日立ソリューションズ）。04年に障害者スキーの実業団チームが設立されると、荒井さんは東京都江東区の職員から転身して監督に就任。新田に声をかけた。

だが新田はためらった。「(当時の) 所属企業に十分な恩返しができていない」。1人で活動すると告げた。練習場所を確保し、練習メニューを考えるが、成績は低迷。悩むことが増え、気持ちの余裕も失っていった。1年半後、荒井さんに頭を下げた。「このままでは選手として終われない。チームに入れて下さい」

「お金や仕事の心配はしなくていい。僕が守るから」。そんな荒井さんの言葉にも支えられ、10年バンクーバー大会で2個の金。世界で勝つという目標に2人でたどり着いた。

今大会に向け、日立ソリューションズは新田のためにコーチを雇った。練習パートナーも新たにつけた。荒井さんは「環境さえあればトップに立つ選手が生まれる」。そして期待を込めた。「新田を見ているんな選手が競技を始めてくれた。多くの子がパラリンピックを夢見て、チャレンジしてもらいたい」（西村奈緒美、菅沼遼）

違う個性もっと伸ばして 障害児らとフェス 徳島・あす /徳島 毎日新聞 2018年3月17日
「四つ葉」の仲間とイベント「MIX JUICE」を企画した神山純子さんと次男太佑ちゃん＝徳島市沖浜町で、蒲原明佳撮影

ライブやヨガなどのワークショップを親子で楽しむイベント「MIX JUICE」が18日、徳島市の万代中央ふ頭「第二倉庫アクア・チッタ」である。世界ダウン症の日（21日）に合わせ、音楽が響く空間でさまざまな子どもたちが一緒に体を動かせる遊びの場。オリジナルジュースが味わえるカフェやリースづくりなど、大人がうれしい出展もある。【蒲原明佳】



「認知症になってもできることある」 豊かな観察力で描く水彩画 新宿で23日まで展示 東京新聞 2018年3月18日
若年性認知症と診断された後に描いた野鳥の水彩画（手前）などを展示する神矢努さん＝新宿区のマザアス新宿で

若年性アルツハイマー型認知症の患者で、新宿区の神矢努さん（65）が描いた絵画の展示会が同区新宿七の高齢者福祉施設「マザアス新宿」で二十三日まで開かれている。観察した野鳥や親戚の似顔絵など、水彩画を中心に十二点が並ぶ。神矢さんは「認知症にな



ってもできることがあると知ってほしい」と話す。（増井のぞみ）

神矢さんは郵便局に勤務し、退職後は都営戸山ハイツ（同区）で自分が住んでいる棟の自治会長や事務局長を務めるなどした。六十三歳の冬、家を出た瞬間、風景が分からなくなった。その後、医師から認知症と診断され「まさか自分が」と涙があふれた。

二年が過ぎ、症状は進む。漢字を書けなくなり、平仮名も間違える。足し算・引き算も難しく、買い物では千円札を出すので「財布は小銭でいっぱい」だ。

水彩画は、認知症と診断された後「集中して他のことを忘れられる」と打ち込んだ。二十五年来連れ添うパートナーの佐久間登喜子さん（67）と観察したアオゲラやカワセミなど野鳥三十種以上を、写真を基に描いた作品は「細やかな色使いを工夫した」という。

親戚の似顔絵は長寿祝いのために描いた。肌の色つやがよく朗らかな表情だ。

十七日に会場を訪れた板橋区の森義弘さん（70）は「野鳥の色使いが柔らかく、観察力がすごい」と声を弾ませた。神矢さんは「認知症になっても、高齢になっても、一緒に楽しんでいこうと思ってもらえたら」と語る。

絵画展は午前十時～午後五時、無料。問い合わせは「マザアス新宿」＝電03（5285）2532＝へ。

昭恵氏、森友に言及せず 東海市で対談イベント「過去を後悔することも」

中日新聞 2018年3月18日



対談する昭恵氏＝17日午後、愛知県東海市で（佐藤哲紀撮影）

障害者福祉をテーマにした対談イベントの会場を後にする安倍昭恵氏を乗せた車＝17日午後、愛知県東海市で（佐藤哲紀撮影）



財務省の決裁文書改ざん問題で、野党が証人喚問を求めている安倍晋三首相の妻昭恵氏が十七日、愛知県東海市で障害者福祉をテーマにした対談イベントに出席した。改ざんが明らかになって以降、昭恵氏が公の場に姿を見せたのは初めてだが、改ざんを含む森友問題や政治状況には一切、言及しなかった。

昭恵氏は、脊髄性筋萎縮症で寝たきり生活を送りながら名刺作成会社を経営する同市の佐藤仙務（ひさむ）さん（26）と約一時間、対談した。フェイスブックで知り合い、数年間の親交があるといい、主に昭恵氏が聞き役になる形で進行。昭恵氏は「私も過去を後悔したり、反省したりする」などと語った。

イベントには事前に申し込んだ六百人が参加。新聞やテレビ、週刊誌の記者やカメラマンら五十人以上が改ざん問題についての昭恵氏の受け止めを聞こうと集まった。だが昭恵氏は、対談後は報道陣の前に姿を見せず、車に乗り込んで会場を去った。

「昭恵さん 国会でも話して下さい」と書かれたプラカードを手に沿道に立った名古屋市の主婦（67）は「証人喚問は絶対に必要。自分の言葉で説明すべきだ」と話した。

じゃばら濃厚「邪祓酒」登場 射箭頭八幡神社から発信

ニュース和歌山 2018年3月17日

和歌山市本脇の射箭頭（いやと）八幡神社は、和歌山産のじゃばらを使った「邪祓酒」の販売を2月末に始めた。神社から和歌山の物産を発信する試みで、同神社は「神社が個

性を出し、地域の元気につながれば」と望んでいる。

北山村の特産品として知られる柑橘類のじゃばら。様々な加工品がある中、きのくに地域活性化協議会代表の志賀弘明さんは一昨年、内閣府の知人から市販のじゃばら酒について、「味はいいので、楽しんで飲める雰囲気があると、人気が出るのでは」とアドバイスを受けた。

巫女のキャラクターでじゃばらを発信

かねてから同協議会で県内の神社の活性化を目指してきた志賀さん。じゃばらは「邪を祓う」との語呂合わせで縁起物にされ、神社からの発信に合うと考え、ステッカーやテーマソング制作とユニークな取り組みを行ってきた射箭頭八幡神社での販売を思い立った。同市の企画会社アイズテクノハウスが製品を企画、世界一統に依頼し、1年かけて「邪祓酒」(500[㍷])と「邪祓果汁」(150[㍷])を生み出した。



みなべ産のじゃばらを使い、通常のじゃばら酒が果汁10%程度のところ20%と濃厚にしつつ、さわやかな甘みを醸した。協力した同協議会の加勢田城豪(きごう)さんは「居酒屋を営む知人からは『なかなかない味だけど、どこか懐かしい』と好評でした」。ラベルのキャラクターは障害者就労支援事業所のスタッフが描いた巫女で、現在、これに合わせたアニメの制作も進める。

志賀さんは「炭酸水で割ると、さわやかに飲めます。県外でじゃばらは知られておらず、物産のブランド化につながる。他の神社でもこういった取り組みが広がってほしい」と力を込める。

邪祓酒は2500円、果汁850円。同市鷹匠町のわいんでぐちでも販売。同神社(073・451・7405)。

[大弦小弦] 自称「ダウン症のイケメン」あべけん太さん...

琉球新報 2018年3月17日

自称「ダウン症のイケメン」あべけん太さん(30)がおもしろい。IT企業の総務部で働きながら、タレントとしてテレビに出演する。「歌へタだよね」と言われてもカラオケが大好きで、休みの日は「昼間からビール」が至福。レスリング、ボクシング、絵画が趣味で、55回目の挑戦で運転免許試験に合格して歓喜する▼著書で「もし障害がなくなる『禁断の実』があったとしても、僕はまったく食べたくないですね。食べたら『ダウン症のイケメン』じゃなくなりますから」。天真らんまんな明るさは人を元気にする▼十人十色だが、ダウン症はちゃめつけがあって人の注目を集めるのが好きな子が多い。成長のスピードは遅いけれど、時間をかけているんなことのできるようになる。ダウン症児の親の会の取材を通して知ったことだ▼相模原市の障がい者施設で19人を刺殺した男は「昔見た同級生が重い障がい者で幸せに思えなかった」と供述した▼『「障害者なんて生まれてこない方がいい』という意見を聞くと『ふざけんなよ』って思います。僕は毎日ハッピーです」とあべさん。独善的な思考は無知から生まれるものだ▼世界ダウン症の日になんだ啓発イベントが21日、北谷町美浜で開かれ、ダウン症の子たちがダンスなどを披露する。「障がいはいは不幸か?」。その答えがきっと見つかるはずだ。(高崎園子)



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行